

【R18】 会話形式ノベル（台本仕様）

『女教師、男子を全裸にして

ねちねちとお仕置きをする』

作：七条右京

【主な登場人物】

あいだ りえ
・ **相田理恵**：女教師

やまさき ゆうき
・ **山崎優紀**：男子生徒

女教師。

色々な性格の女教師がこの世には存在する。

誰一人として、同じ性格の女教師はいない。

その性格から、男子生徒へのお仕置きも様々。

相田理恵は、ねちねちとお仕置きをする。

○校内のお茶室

理恵は、お仕置きをする為に、お茶室に男子生徒の優紀を呼び出した。

相田理恵：

「今日呼んだのは、君にお仕置きをする為よ」

「分かってるわよね」

山崎優紀：

「あっ、はい」

理恵：

「少しは反省したの？」

優紀：

「反省しました」

理恵：

「ふ～ん、そうなの」

「でもその言葉だけでは駄目よね」

「カラダで反省して貰わなきゃね」

「今日は、たっぷり、たっぷり時間をかけてお仕置きをしてあげるから、そのつもりでいなさい」

「先ずはその前に、お茶を飲みましょうね」

「今、お茶を点てるから待ってなさいね」

優紀：

「あっ、はい」

ふたり分のお茶を点て、お菓子と一緒に出す理恵。

理恵：

「さあ、どうぞ」

「どうせ作法は知らないでしょうから、適当で

いいわよ」

「お菓子を食べて、お茶を飲みなさい」

優紀：

「頂きます」

**理恵と優紀、甘い和菓子を食べて、苦くほんの
少し甘い抹茶を飲んだ。**

理恵：

「ああ、心が落ち着くわね」

「山崎君、気持ちがしゃんとしたかしら？」

**「先生はね、君が憎くてお仕置きをする訳じゃ
ないのよ」**

「悪い事をしたら、カラダで覚えて貰う必要が

あると思うの」

**「だから、いい、先生のお仕置きをありがたく
受けるのよ」**

「いいわね」

「分かったら、返事をしなさい」

優紀：

「はい、先生」

理恵：

「素直でいい返事ね」

「さあ、先ず君には服を全部脱いで貰うわ」

**「着てる物を全部脱いで、先生の前で全てをさ
らけ出しなさい」**

優紀：

「えっ、全部脱ぐんですか？」

「全部脱いだら、先生にちんこ見られてしまいます」

「恥ずかしいですよ」

理恵：

「先生に、おちんちん見られる位、なんともない、なんともない」

「変に気にするから恥ずかしいのよ」

「先生、君のおちんちん見ても、なんとも思わないから」

「早く脱ぎなさい」